

2024年5月22日

各位

インフラファンド発行者名
東京都千代田区丸の内二丁目6番1号
いちごグリーンインフラ投資法人
代表者名 執行役員 伊藤 菜々子
(コード番号 9282) www.ichigo-green.co.jp
管理会社名
いちご投資顧問株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 岩井 裕志
問合せ先 執行役員グリーンインフラ本部長
新田 貴生
(電話番号 03-4485-5233)

いちごグループによる温室効果ガス排出削減目標「Science Based Targets」 認定のお知らせ

いちごグリーンインフラ投資法人（以下、「本投資法人」という。）は、「サステナブル経営」の実現を重要な経営課題とし、ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを積極的に推進しております。

本投資法人のスポンサーであるいちご株式会社（以下、「いちご」という。）は、パリ協定が求める水準と整合した企業が定める温室効果ガス排出削減目標である「Science Based Targets」（以下、「SBT」という。）を設定し、SBTイニシアティブより認定を受けました。いちごは気候変動による世界の平均気温上昇を産業革命前と比べ1.5℃未満に抑える「1.5℃目標」として認定を受けており、「1.5℃目標」は「2℃を十分に下回る水準（WB2℃）」目標を上回るものです。

この目標設定は、いちごと本投資法人、そしていちごオフィスリート投資法人（8975）、およびいちごホテルリート投資法人（3463）による温室効果ガスの排出も含めた目標設定としております。

1. 認定を受けた温室効果ガス排出削減目標

対象項目		目標	達成年限
スコープ1	事業者自らによる直接排出	70%削減 (2022年基準)	2030年
スコープ2	他社から供給された電気、熱、蒸気使用に伴う間接排出		
スコープ3	スコープ1、2以外の間接排出 (事業活動に関連する他社の排出)	25%削減 (2022年基準)	



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

BUSINESS
AMBIITION FOR 1.5°C



2. SBTの概要

SBTは、パリ協定が求める水準（※）と整合した5～15年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標です。運営機関は、CDP（企業の気候変動、水、森林に関する世界最大の情報開示プログラムを運営する国際的な非営利団体）、UNGC（国連グローバルコンパクト）、WRI（世界資源研究所）、WWF（世界自然保護基金）により2015年に設立され、現在、世界で約4,700社の企業が1.5℃目標でSBT認定を取得しております。

（※）世界の気温上昇を産業革命前よりスコープ1,2では、1.5℃以内に抑え、スコープ3では2℃を十分に下回る水準（Well Below 2℃）に抑える

3. いちごの取り組み

本投資法人およびいちごは、人類、社会そして地球の一員として「サステナブル経営」の実現を重要な経営課題としております。あらゆる事業活動を社会貢献と捉えて事業を推進しており、世界的な課題かつ企業の社会的責任であるサステナブルな社会の実現に向け、「サステナブルインフラ企業」として大きな成長を目指しております。

いちごグループは、現存不動産を活かし「100年不動産」の実現を目指す、省資源・高効率な「心築（しんちく）」事業や、クリーンエネルギー事業による再生可能エネルギーの創出と温室効果ガスの削減等、本業による環境負荷低減を推進しております。加えて、社会をより良い状態で次世代へ継承するための一員として、長期VISION「いちご2030」において、環境課題解決における経営目標（KPI）を設定しております。このKPIでは、クリーンエネルギーの創出により削減するCO2量が、いちごおよび本投資法人を含めた3投資法人が消費するCO2量（Scope1・Scope2）を上回るクライメート・ポジティブの維持、事業活動で消費する電力を2025年までに100%再生可能エネルギーとする「RE100」の取り組みなど、地球温暖化等が深刻化しているなか、環境課題解決に向けた目標を設定しており、役職員一同が一丸となって取り組んでおります。

詳細はいちごによるリリース「長期VISION『いちご2030』経営目標（KPI）の刷新のお知らせ」をご覧ください。

www.ichigo.gr.jp/news/p_news_file/file/Ichigo_20240415_Updated_Ichigo2030_KPIs_JPN.pdf

以 上